

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190600108		
法人名	株式会社 サンライズ		
事業所名	グループホーム ゆつつらへと		
所在地	佐賀県武雄市武雄町大字富岡10101番地3		
自己評価作成日	令和7年3月9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市天神一丁目4番15号		
訪問調査日	令和7年3月25日	外部評価確定日	令和7年4月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者それぞれの状態や症状に合わせた対応や取り組みに努めており、個々のペースを大切にしゆつくりと過ごしていただけるよう毎日のケアに取り組んでいます。
毎日の体操やレクリエーションに参加していただくことで生活リハビリにつなげ、残存機能が活かされ、また、維持できるような生活を送っていただけるよう支援しています。また、季節感のあるレクリエーションや活動・行事を実施したり、簡単な家事活動を職員と一緒にこなっていただき、認知症の進行防止に努めています。
外国人技能実習生を受け入れており、職員や利用者様にとって良い刺激になっていると考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

職員にはお互いさまという想いがあり、チームワークの良さへと繋がっている。休暇希望には全て応えている点も働きやすさの一因であり、現場にある程度の裁量が委ねられている事で、自ら考え判断できる力も育まれている。日中に利用者と居間で過ごす様子には、日頃の暮らしの様子が感じられ、聞こえやすいように耳元で話し掛けたり、会話する時の笑顔であったり、また本を開く方には静かな見守りがある。更に、家族からの意見は真摯に受け止め、質の低下とならないよう努力を続けている事業所でもある。

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
		実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	安全・健康・信頼をA棟の理念として、自分のペースで、自分らしく、快適に安心して生活していただけるように支援している。	安全・健康・オンリーワンをB棟の理念として、自分のペースで、自分らしく、快適に安心して生活していただけるように支援している。	各ユニットは理念を3つの端的な言葉で表している。「安全」「健康」は同じだが、「信頼」と「オンリーワン」はそれぞれの想いである。目に付く場所への掲示と、職員会議等で話題にすることで意識付けも図っている。例えば転倒などのリスクに備え、敢えてヒヤリハットに挙げ注意喚起しているのは「安全」を意識しているからである。日々のケアに理念が活かされているのが窺える。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ等感染症の影響により交流は控えている状況が続いているが、地域の回覧板を回してもらい、情報が得られるようにしている。 地域への行事にも参加できていないが、普段から施設まわりの環境整備をおこなっている。	コロナ等感染症の影響により交流は控えている状況が続いているが、地域の回覧板を回してもらい、情報が得られるようにしている。 地域への行事にも参加できていないが、普段から施設まわりの環境整備をおこなっている。	自治会に加入し、回覧板や運営推進会議の折にも地域の細かい情報は得られている。コロナ禍の規制は徐々に緩和されており、散歩の途中や職員を見て話し掛ける住民もある。今後は回覧板を活用した情報発信ができないか、区長への相談も検討している。誰にでも訪れる高齢化や認知症等の正しい知識を伝え、地域への貢献ができればと考えている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に地域の方々に参加いただき、認知症について理解を深めていただけるよう施設の情報を報告している。	運営推進会議に地域の方々に参加いただき、認知症について理解を深めていただけるよう施設の情報を報告している。	

自己	外部	項 目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について 報告や話し合いを行い、そこでの意見を サービス向上に活かしている	2か月に1度会議を開催し、運営状 況や施設の情報等を報告できている。 会議には地域の代表の方や行政 の担当者、利用者家族の代表者 に参加してもらっており、運営や認 知症についての質問や意見をいた だき情報交換・共有ができています。	2か月に1度会議を開催し、運営状 況や施設の情報等を報告できている。 会議には地域の代表の方や行政 の担当者、利用者家族の代表者 に参加してもらっており、運営や認 知症についての質問や意見をいた だき情報交換・共有ができています。	会議は概ね30分間、事業所からの 報告のみで終始するのではなく、双 方向な意見交換を行っている。行政 側は代理でも必ず出席者を出し、参 加する家族には実情を知る良い機 会にもなっている。外部の人の目が入り、事業所を知ってもらふ機会とし ても活かせるよう努めている。自己 評価では、この会議を通して地域と の繋がりが深まりが少しずつ増えて いると答えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り 、事業所の実情やケアサービスの取り組 みを積極的に伝えながら、協力関係を築く ように取り組んでいる	運営推進会議の開催時には市町村 の担当者に出席をいただいている。 施設入居についての問い合わせ や相談をいただくこともあり、その 都度情報交換をおこなっている。コ ロナの影響で中断されていた介護 相談員の訪問も昨年11月より再開 されている。	運営推進会議の開催時には市町村 の担当者に出席をいただいている。 施設入居についての問い合わせ や相談をいただくこともあり、その 都度情報交換をおこなっている。コ ロナの影響で中断されていた介護 相談員の訪問も昨年11月より再開 されている。	事業所の仕組みとして、問い合わせ 等はまず法人本部(統括担当)へ行 い、そこから行政担当者へ確認する 流れとなっている。直に相談するこ とはないが、運営推進会議のメン バーでもあり、日頃から顔馴染みで ある。また2か月に一度訪れる介護 相談員は30分程を滞在し、利用者 の話に耳を傾けてくれている。橋渡 し役としてだけでなく、忌憚のない 意見にも期待している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着 型サービス指定基準及び指定地域密着型 介護予防サービス指定基準における禁止 の対象となる具体的な行為」を正しく理解 しており、玄関の施錠を含めて身体拘束を しないケアに取り組んでいる	現在は身体拘束の実施はないが、 身体拘束委員会を毎月実施し、施 設内での勉強会にも議題としてあげ ている。やむを得ず身体拘束をおこ なう場合は家族に説明をおこない、 同意を得た場合のみ実施し、検討 会を2か月に1回おこない身体拘束 解除のため職員間で検討している。	現在は身体拘束の実施はないが、 身体拘束委員会を毎月実施し、施 設内での勉強会にも議題としてあげ ている。やむを得ず身体拘束をおこ なう場合は家族に説明をおこない、 同意を得た場合のみ実施し、検討 会を2か月に1回おこない身体拘束 解除のため職員間で検討している。	入居契約時に指針の説明を行って いる。職員は身体拘束の内容やそ の弊害まで理解しており、現在その 事例はない。この項目では、やむを 得ず実施する場合に、安全面や家 族の承諾を理由に正当化していな いか、また実施後は止めるための 工夫や方法を話し合っているかが問 われている。事業所では自己評価 に記す通りの対応であり、年2回以 上の研修も行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等に ついて学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内での虐待が見過ごされることが ないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止委員会を毎月実施 し、施設内での勉強会でも議題とし て取り上げ、高齢者虐待への理解を 深めるようにしている。	高齢者虐待防止委員会を毎月実施 し、施設内での勉強会でも議題とし て取り上げ、高齢者虐待への理解を 深めるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナ等の感染症の影響により外部の研修会への参加を控えている為、施設内での勉強会にて理解を深めるようにしている。	コロナ等の感染症の影響により外部の研修会への参加を控えている為、施設内での勉強会にて理解を深めるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者より契約書・重要事項説明書について家族へ分かりやすい説明をするように心がけている。内容の変更があった場合には都度文書で通知している。	管理者より契約書・重要事項説明書について家族へ分かりやすい説明をするように心がけている。内容の変更があった場合には都度文書で通知している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会制限を緩和しており、家族と実際に顔を合わせて意見や要望を聞く機会も増えている。また、職員が近況報告のために家族へ電話をかけることもある。 聞いた意見や要望は職員間で共有し、サービスに反映できるよう検討をおこなっている。	面会制限を緩和しており、家族と実際に顔を合わせて意見や要望を聞く機会も増えている。また、職員が近況報告のために家族へ電話をかけることもある。 聞いた意見や要望は職員間で共有し、サービスに反映できるよう検討をおこなっている。	毎月の利用料請求書を送付する際には「ゆつつら～とだより」が同封され、家族にとっては多くの写真から日常を垣間見ることも出来る。利用料を敢えて窓口支払い可としていることで家族が訪れる機会はある。事業所では直接会話が出来る時間を大切にしており、世間話等も交えながら何でも話してもらえよう努めている。遠方に住む家族や、時間が取れない家族には電話を掛け想いを汲み取ろうとし、聞き取った事は口頭や連絡ノートで共有を図っている。また今回の当外部評価アンケートには家族からの感謝の言葉も多く記されていたが、率直な意見もあった。出された意見に対し前向きに活かす姿勢があるかが問われている。事業所では全体へ向けたものとしてアンケートの意見に対する返答をする予定である。	

自己	外部	項 目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2ユニット合同での職員会議を毎月実施し、職員の意見を聞く機会を設けている。また、本部担当者や管理者が職員と個別で話をする機会を設けることもあり、情報交換や意見・要望の聞き取りをおこなっている。普段の業務のなかでも職員が管理者に対して意見や提案をする環境ができています。	2ユニット合同での職員会議を毎月実施し、職員の意見を聞く機会を設けている。また、本部担当者や管理者が職員と個別で話をする機会を設けることもあり、情報交換や意見・要望の聞き取りをおこなっている。普段の業務のなかでも職員が管理者に対して意見や提案をする環境ができています。	毎月の職員会議は13時半から約90分間、2ユニット合同で開き、休みの職員には出欠の判断を任せている。法人から統括担当者の参加があることで現場の声は直に届けられ心強い存在でもある。各委員会からの報告やこれからの行事、また勉強会等も組まれており内容は多岐にわたる。ユニット毎に利用者の介護度にも差があり、それぞれの立場から意見が出されている。現場に、ある程度の裁量が委ねられている事も特長である。管理者としては働きやすい職場となるよう日頃からコミュニケーションを図り、定時での帰宅を促し、休暇希望には全て応えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職場環境や条件の整備に努めている。管理者や職員との面談の機会を設け、意見や要望を聞き取り反映させるように努めている。	代表者は職場環境や条件の整備に努めている。管理者や職員との面談の機会を設け、意見や要望を聞き取り反映させるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ等の感染症の影響により外部研修への参加は控えている。職員間での意見や情報交換を密におこない、お互いの能力を伸ばしやすい環境づくりに努めている。	コロナ等の感染症の影響により外部研修への参加は控えている。職員間での意見や情報交換を密におこない、お互いの能力を伸ばしやすい環境づくりに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	佐賀県認知症グループホーム協会に入会しており、情報交換が出来るようにしている。	佐賀県認知症グループホーム協会に入会しており、情報交換が出来るようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人が生活されている自宅や施設を訪ね、現在の困りごと等をたずねている。ご本人の様子をみながら適切な声掛けや対応を検討し、信頼関係の構築に努めている。	入居前に本人が生活されている自宅や施設を訪ね、現在の困りごと等をたずねている。ご本人の様子をみながら適切な声掛けや対応を検討し、信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時や入居契約時に管理者や計画作成担当者が家族の現状の負担や困りごと等を聞き、事業所のサービス内容や費用について説明をおこなっている。入居後しばらくは利用者本人の状態について細かく報告するようにしている。	入居相談時や入居契約時に管理者や計画作成担当者が家族の現状の負担や困りごと等を聞き、事業所のサービス内容や費用について説明をおこなっている。入居後しばらくは利用者本人の状態について細かく報告するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談の内容によっては、様々な選択肢があることを説明し、最も必要と思われるサービスの提案や紹介をおこなっている。	入居相談の内容によっては、様々な選択肢があることを説明し、最も必要と思われるサービスの提案や紹介をおこなっている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と共に日常生活を送るうえで信頼関係を築くことを大事にしている。共に簡単な家事活動等をおこなうことも多い。	利用者と共に日常生活を送るうえで信頼関係を築くことを大事にしている。共に簡単な家事活動等をおこなうことも多い。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会制限を緩和したこともあり、以前よりも利用者と家族が顔を合わせて話をする機会が増えている。	面会制限を緩和したこともあり、以前よりも利用者と家族が顔を合わせて話をする機会が増えている。		

自己	外部	項 目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生活歴や人間関係の把握には、利用者本人や家族、担当のケアマネジャーや利用していた施設等から情報を聞くようにしている。家族のみでなく、知人友人の面会も以前より多くなっている。病院受診等で出掛けの際に馴染みのある場所へ寄ったり、家族の希望もあり自宅周辺にドライブに出掛けた方もいる。	生活歴や人間関係の把握には、利用者本人や家族、担当のケアマネジャーや利用していた施設等から情報を聞くようにしている。家族のみでなく、知人友人の面会も以前より多くなっている。病院受診等で出掛けた際に馴染みのある場所や自宅周辺をドライブすることもある。	入居前に本人が生活する場所を訪れ困り事などを聞く中で、人間関係等の把握にも努めている。また病院のソーシャルワーカーなど、これまで関わりのあった方々からも情報を集め、それらが基となり具体的な支援へと繋げている。お正月の帰宅や法事、自身の米寿祝いへ出掛けた方もある。電話の取次ぎはいつでも可能であり、携帯電話を持つ方は自由に会話を楽しんでいる。夏の厳しい暑さの時期は家族も慎重になっているが、本人が大切にしてきた関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で円滑にコミュニケーションがとれるよう、団欒の場では職員が話題を提供する等して、皆さんで会話が出来るよう対応している。居間や食堂の席の配置にも気を配っている。	利用者同士で円滑にコミュニケーションがとれるよう、団欒の場では職員が話題を提供する等して、皆さんで会話が出来るよう対応している。居間や食堂の席の配置にも気を配っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された利用者の家族から連絡があったり、施設から近況を訊ねることもある。以前入居されていた利用者の家族より、利用者の配偶者の入居相談を受け、入居に至った経緯がある。	退去された利用者の家族から連絡があったり、施設から近況を訊ねることもある。以前入居されていた利用者の家族より、利用者の配偶者の入居相談を受け、入居に至った経緯がある。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者との日々の関わりの中でも思いや意向の把握に努め、聞き取った情報は口頭や記録に残すことで職員間での共有を図っている。意思疎通の困難な方は、家族からの情報や本人の普段の言動や表情等から意向を汲み取るように努めている。聞き取った情報は介護計画作成時に活用している。	利用者との日々の関わりの中でも思いや意向の把握に努め、聞き取った情報は口頭や記録に残すことで職員間での共有を図っている。意思疎通の困難な方は、家族からの情報や本人の普段の言動や表情等から意向を汲み取るように努めている。聞き取った情報は介護計画作成時に活用している。	利用者の想いが聞けるのは、隣に座って話し相手をしたり、入浴中の寛いだひとときなど、一対一でいる時に多い。職員は話し相手をするのが上手く、答えに選択肢を用意した問いかけ方も工夫している。利用者の中にはお気に入りの職員を待つ方もある。発語の少ない方は家族からの情報も参考とし、聞き取った事は口頭や連絡ノート、介護記録等へ記し共有を図っている。そこからケアプランへ反映させた例もある。	
----	-----	---	--	--	---	--

自己	外部	項 目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者本人や家族からの聞き取りにて情報把握に努めている。時間が経過してから新たに情報を得ることもあるため、随時聞き取りをおこない、普段の日常会話の中でも情報把握に努めている。	利用者本人や家族からの聞き取りにて情報把握に努めている。時間が経過してから新たに情報を得ることもあるため、随時聞き取りをおこない、普段の日常会話の中でも情報把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者それぞれの1日の過ごし方を観察し、心身状態や利用者個々のペースに合わせたケアに努めている。また日々の生活の中で本人の出来ること・出来ないことの把握に努めている。	利用者それぞれの1日の過ごし方を観察し、心身状態や利用者個々のペースに合わせたケアに努めている。また日々の生活の中で本人の出来ること・出来ないことの把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者・家族の意向や、主治医の意見、看護職員や介護職員等ケアに関わる方の意見を聞きながら計画作成をおこなっている。利用者の心身の変化に応じてケアの見直しを随時おこない、カンファレンスでは夜勤専門の職員や調理担当の職員からも意見や情報を貰い、計画作成に反映している。	利用者・家族の意向や、主治医の意見、看護職員や介護職員等ケアに関わる方の意見を聞きながら計画作成をおこなっている。利用者の心身の変化に応じてケアの見直しを随時おこない、カンファレンスでは夜勤専門の職員や調理担当の職員からも意見や情報を貰い、計画作成に反映している。	ケアプランの見直し期間は、入居して間もない時期は暫定的に1～2か月毎とし、その後、様子を見ながら通常の6か月毎へと延ばしている。その間に変化があれば臨機応変な対応もある。利用者の想いは日々のケアの中で把握し、家族の要望等は面会時や電話での会話から汲み取っている。家族からは「穏やかに過ごしてほしい」「今のままで」という声が聞かれる。歳を重ねる度に身体機能(残存能力)も低下していくが、何にでも手を貸すのではなく、出来る事はやってもらうケアと、その毎日の積み重ねによって現状の維持に努めている。また今回の当外部評価アンケートでは「介護計画について説明を受け一緒に話し合っている」と答えた家族が殆どであった。毎月のモニタリングを各棟のケアマネジャーが行っており、それを踏まえた家族との細かく十分なヒヤリングが功を奏している。	

自己	外部	項 目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者個人の日々の様子を記録し情報を集め、職員間で共有したり介護計画作成時のアセスメントやモニタリングに活用している。 職員には、利用者や家族からの生活に対する思いが聞き取れた際には記録に残してもらうようお願いしている。	利用者個人の日々の様子を記録し情報を集め、職員間で共有したり介護計画作成時のアセスメントやモニタリングに活用している。 職員には、利用者や家族からの生活に対する思いが聞き取れた際には記録に残してもらうようお願いしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者のその時の状況や、利用者本人・家族の意向を汲んで臨機応変な対応を心がけている。	利用者のその時の状況や、利用者本人・家族の意向を汲んで臨機応変な対応を心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源についての理解はまだ不足しているが、2～3か月に1度地域の理髪店に訪問していただき散髪をお願いしたり、また防災に関する連携として、避難場所を近隣のお寺にお願いしたり、地域の消防団との連携を図っている。	地域資源についての理解はまだ不足しているが、2～3か月に1度地域の理髪店に訪問していただき散髪をお願いしたり、また防災に関する連携として避難場所を近隣のお寺にお願いしたり、地域の消防団との連携を図っている。 地域の整骨院に通院されている方もいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居をきっかけに主治医を施設の協力医へと変更される方がほとんどである。月2～3回の定期往診のほか、異常時には随時相談や受診をし、適切な医療を受けられるよう支援している。他科受診の際には、家族に行きつけや希望先がないか訊ね、行きつけの病院があればそこに受診・往診を依頼している。	入居をきっかけに主治医を施設の協力医へと変更される方がほとんどである。月2～3回の定期往診のほか、異常時には随時相談や受診をし、適切な医療を受けられるよう支援している。他科受診の際には、家族に行きつけや希望先がないか訊ね、行きつけの病院があればそこに受診・往診を依頼している。	かかりつけ医は、入居後に説明を聞き納得して協力医への変更を希望した方が多い。元々、協力医の患者だった方には病歴等を知ってもらっている安心感もある。定期的な訪問診療を受け、今回のアンケートでも殆どの家族が「健康面や医療面、安全面について心配な点はない」と答えている。受診に出向く場合、付き添うのは看護師か職員だが、その結果は当日中に家族に報告している。他科受診でも家族に意向を尋ね、希望する医師による医療を支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護士と看護師で日々の情報交換や相談をおこない、状態変化の早期発見・早期対応に努めている。看護師の出勤日以外や夜間帯でも連絡がとれるようにしており、状況に応じて電話での指示を受けたり、看護師が駆け付け対応することもある。	介護士と看護師で日々の情報交換や相談をおこない、状態変化の早期発見・早期対応に努めている。看護師の出勤日以外や夜間帯でも連絡がとれるようにしており、状況に応じて電話での指示を受けたり、看護師が駆け付け対応することもある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関への情報提供をおこない、入院中は面会や電話で様子を訊ね情報の把握をおこなっている。退院時は医療機関や家族と相談し、退院後の受け入れがスムーズにおこなえるよう調整している。	医療機関への情報提供をおこない、入院中は面会や電話で様子を訊ね情報の把握をおこなっている。退院時は医療機関や家族と相談し、退院後の受け入れがスムーズにおこなえるよう調整している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者が重度化した場合における対応に関わる指針について、入居時に管理者より家族へ説明し同意を得ている。現在も看取りは行っておらず、施設での生活が困難だと判断した際は家族や主治医と今後の対応について話し合いをおこなっている。	利用者が重度化した場合における対応に関わる指針について、入居時に管理者より家族へ説明し同意を得ている。現在も看取りは行っておらず、施設での生活が困難だと判断した際は家族や主治医と今後の対応について話し合いをおこなっている。	入居契約時に指針の説明を行っている。事業所では看取りは行っておらず、その旨も含めた説明である。体調の変化に伴い、徐々に事業所での生活が難しくなるとの判断に至れば、選択肢を示しながら話し合いは何度でも重ねる事としている。本人や家族が安心して納得した終末期を迎えられるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	武雄消防署員より応急手当についての研修を受けた職員もいるが定期的な訓練については実施できていない。AEDも準備し使用方法の研修は随時おこなっている。夜間の緊急対応マニュアルも整備している。	武雄消防署員より応急手当についての研修を受けた職員もいるが定期的な訓練については実施できていない。AEDも準備し使用方法の研修は随時おこなっている。夜間の緊急対応マニュアルも整備している。		

自己	外部	項 目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設の防災担当職員の指導の下、定期的な避難訓練を実施している。また、地域の指定避難場所を見学、説明を受けに出向いて情報の把握にも努めている。地域の方々から避難場所の提供や避難時の協力の申し出もあっている。 ハザードマップでは土石流エリアとなっており、運営推進会議で自然災害時の対応についての話があることもある。地域住民の方より情報を得る機会となっている。	施設の防災担当職員の指導の下、定期的な避難訓練を実施している。また、地域の指定避難場所を見学、説明を受けに出向いて情報の把握にも努めている。地域の方々から避難場所の提供や避難時の協力の申し出もあっている。 ハザードマップでは土石流エリアとなっており、運営推進会議で自然災害時の対応についての話があることもある。地域住民の方より情報を得る機会となっている。	年2回の避難訓練は昼間帯に行い、夜間想定では夜勤とみなした職員のみで初期対応を試みている。利用者も一緒に避難を体験し、職員は消火器や通報装置の使い方も承知している。居室のドアを塞ぐような家具の配置もない。各居室の入り口には介助の度合い(車椅子・自走など)を示す絵が貼られており、協力者への情報となっている。非常食や水の備蓄もあり、訓練後の反省はその場で行い、改善点があれば速やかに改め周知される。	緊急時の避難で最終的に落ち着く場所まで決定されていない点に不安が残る。ハザードマップでは内水浸水エリアと土石流警戒区域になっている。火災時の場合も一次避難先として近所の寺にお願いしているが、消失した場合の対策などは未定の部分も多い。同市内にある法人施設を有効な避難先とするのか、また一斉連絡網に区長など地区役員を登録してもらう案など、いざという時に備えた手順の更なる検討を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個々のプライバシーに配慮した声掛けや介助を心がけている。特に排泄や入浴時の介助には配慮が必要であり、同性職員による介助が適している場合もある。 施設で作成している新聞等への写真の掲載については、入居時に家族に確認をおこなっている。	利用者個々のプライバシーに配慮した声掛けや介助を心がけている。特に排泄や入浴時の介助には配慮が必要であり、同性職員による介助が適している場合もある。 施設で作成している新聞等への写真の掲載については、入居時に家族に確認をおこなっている。	入浴やトイレの介助では羞恥心への配慮が最も求められる。必ずノックをする、ドアは閉める、確認用では最小限になど、基本的な事をきちんと行っている。入居して間もない時期は同性によるケアが望ましいかの判断も、これまでの情報を基に細かく様子をみている。前回の当外部評価後に「利用者それぞれに適した言葉かけや対応を職員間で統一し実践する」と目標を掲げ達成すべく努めている。また個人情報の取り扱いに対する職員の意識は高く、業務上のやり取りであっても声の大きさには注意を払っている。ホーム便りへの写真掲載なども入居時に承諾を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本人に思いや意見をたずねながら意思を尊重し、日常生活の中でささいな事でもなるべく自己決定が出来るように支援している。	利用者本人に思いや意見をたずねながら意思を尊重し、日常生活の中でささいな事でもなるべく自己決定が出来るように支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のその時の心身状態に合わせたケアをおこなうよう心掛け、利用者個々のペースで安心して生活していただけるよう努めている。 利用者によっては食事の時間をずらしたり、日中も臥床の時間を設ける方もいる。	利用者のその時の心身状態に合わせたケアをおこなうよう心掛け、利用者個々のペースで安心して生活していただけるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の整容や外出時の服装、普段の衣服の組み合わせ等にも配慮するよう心掛けている。自己決定が出来る利用者にはどの衣服を着用するか、ご自身で決めていただくこともある。	朝の整容や外出時の服装、普段の衣服の組み合わせ等にも配慮するよう心掛けている。自己決定が出来る利用者にはどの衣服を着用するか、ご自身で決めていただくこともある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は本部の栄養士が作り、旬の食材の使用や季節のイベントに応じたメニューを取り入れている。利用者個々の食形態に合わせて普通食やミキサー食、ソフト食を提供している。 利用者の役割として、食器洗いやお盆拭き、テーブル拭きをお願いしている。	献立は本部の栄養士が作り、旬の食材の使用や季節のイベントに応じたメニューを取り入れている。利用者個々の食形態に合わせて普通食やミキサー食、ソフト食を提供している。 利用者の役割として、食器洗いやお盆拭き、テーブル拭きをお願いしている。	月の3分の2は調理専門スタッフが作り、残りは職員が担当している。献立や食材は一括管理され届いている。利用者毎のアレルギーの有無や好き嫌いも把握しており、苦手なものには代替えもある。利用者に食欲はあるが、毎日の摂取量と月一回の体重測定も体調を推し量る目安としている。出来るだけ自分で口へ運んでほしいとの思いから自助食器も活用し、介助は最小限に止め、声掛けで促す程度である。また誕生日は当日(同月複数人であればまとめて)に祝い、ケーキも用意される。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士により1日1600Calで献立が作成されている。個々の食事・水分摂取量を毎日チェックしており、適度な食事及び水分の確保が出来るよう支援している。	栄養士により1日1600Calで献立が作成されている。個々の食事・水分摂取量を毎日チェックしており、適度な食事及び水分の確保が出来るよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き支援をおこなっている。義歯を使用している方は、夜間は預り、洗浄剤に浸けている。自分で十分に歯磨きが出来ない方は職員が仕上げ磨きをおこなう。	毎食後、歯磨き支援をおこなっている。義歯を使用している方は、夜間は預り、洗浄剤に浸けている。自分で十分に歯磨きが出来ない方は職員が仕上げ磨きをおこなう。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者個々の排泄パターンを把握し、時間をみてのトイレ誘導や、利用者の言動により排泄のタイミングを図り誘導をおこなっている。自力でトイレへの移乗が出来ない方も、ポータブルトイレを使用したり職員が介助することで、なるべくトイレでの排泄が継続できるよう支援している。	利用者個々の排泄パターンを把握し、時間をみてのトイレ誘導や、利用者の言動により排泄のタイミングを図り誘導をおこなっている。自力でトイレへの移乗が出来ない方も、ポータブルトイレを使用したり職員が介助することで、なるべくトイレでの排泄が継続できるよう支援している。	排泄に関して7～8割の方は尿意も分かり自立しているが、任せたままではなく、さり気ない見守りも行っている。チェック表を活かしたケアにより費用負担の軽減へと繋がった方もある。入居後も布パンツで過ごせている方やパット類の使用枚数減、サイズダウンなどがその例である。日中はトイレでの排泄が支援され、車椅子使用でも十分な広さがあり、手すり等の設置は補助具としても役立っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無を毎日確認し、水分補給や適度な運動を促すことで便秘予防に努めている。水分が十分に摂れない方には好みの飲料を提供している。便秘症状や便の性状に応じて、看護師や主治医と相談のうえ下剤の調整もおこなっている。	排便の有無を毎日確認し、水分補給や適度な運動を促すことで便秘予防に努めている。水分が十分に摂れない方には好みの飲料を提供している。便秘症状や便の性状に応じて、看護師や主治医と相談のうえ下剤の調整もおこなっている。個人で便秘予防の健康食品をとっておられる方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	夏場は週3回、冬場は週2～3回の入浴日を設けている。利用者の希望や体調に応じて入浴のタイミングに配慮し、入浴日以外でも汚染等があれば入浴の時間を設けている。衣類の着脱や洗身等、利用者が自分で出来ることはしてもらっている。	夏場は週3回、冬場は週2～3回の入浴日を設けている。利用者の希望や体調に応じて入浴のタイミングに配慮し、入浴日以外でも汚染等があれば入浴の時間を設けている。衣類の着脱や洗身等、利用者が自分で出来ることはしてもらっている。	入浴は午後からを目安にしている。嫌がる方には日にちや誘導のタイミングをずらすことで対応している。入浴日以外でも状況によっては下着肌着の交換をし清潔保持に努めている。約5割の方は浴槽に浸ることが出来るが、それ以外でもシャワーチェア等を活用し、ゆっくり楽しんでもらえるよう支援している。転倒防止の手すりや滑り止めにより安全な入浴に努め、ヒートショック対策では脱衣場の暖気を浴室側へ送ることで備えている。衣服の脱ぎ着は出来るだけ本人に任せ見守っている。	

自己	外部	項 目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中も自分のペースで好きなタイミングで休息してもらっている。利用者の心身状態や状況に応じて、職員が休息を促すこともある。休息される際は居室内の室温等の環境にも配慮している。	日中も自分のペースで好きなタイミングで休息してもらっている。利用者の心身状態や状況に応じて、職員が休息を促すこともある。休息される際は居室内の室温等の環境にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主に看護師が管理し、服薬方法や副作用等について職員に説明をおこなっている。服薬マニュアルも整備し、誤薬事故防止に努めている。薬の追加や変更があった際はすぐに看護師から他職員へ情報共有している。	主に看護師が管理し、服薬方法や副作用等について職員に説明をおこなっている。服薬マニュアルも整備し、誤薬事故防止に努めている。薬の追加や変更があった際はすぐに看護師から他職員へ情報共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々の生活歴や現在出来ることの把握に努め、その方に合わせた役割づくりや活動をおこなうようにしている。職員と共に制作活動や裁縫をされる方もいる。 利用者本人と家族の希望によりアルコール飲料を飲まれる方もいる。	利用者個々の生活歴や現在出来ることの把握に努め、その方に合わせた役割づくりや活動をおこなうようにしている。レクリエーションの時間とは別に、塗り絵やパズルを楽しむ方もいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ等感染症の影響により以前より外出の機会は少ない。人出が多い場所への外出は控えているが、暖かい気候の時期は施設周辺を散歩したり、季節の花々を見物にドライブに出掛けることもある。 家族と共に自宅へ出掛けたりドライブに行かれる方もいる。	コロナ等感染症の影響により以前より外出の機会は少ない。人出が多い場所への外出は控えているが、暖かい気候の時期は施設周辺を散歩したり、季節の花々を見物にドライブに出掛けることもある。	コロナ禍での規制が完全に解除された訳ではないが、事業所の判断と個別の事情に照らし合わせ、概ね緩和されている状況である。季節の花などがテレビから流れると興味を示す方もある。事業所では出来るだけ応えられるよう、近場のスポットやトイレ設備などを把握している。天候や体調をみて当日に決まる外出や、受診の帰り道に遠回りするドライブもある。周辺への散歩は日常的に支援されており、外気に触れることが五感の刺激にもなっている。車椅子使用であっても外へ連れ出し、全く外へ出ないという利用者はいない。	

自己	外部	項 目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者個人で金銭管理をされている方はいない。ほしいものや必要な物品等ある場合は、家族や施設職員が購入している。	利用者個人で金銭管理をされている方はいない。必要なものや欲しいものの購入の依頼をされる方もいるため、代わりに家族や施設職員が購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持参された方もおり、家族と好きなタイミングで電話でお話されている。希望があれば施設の電話を使用することもある。	携帯電話を持参された方もおり、家族と好きなタイミングで電話でお話されている。希望があれば施設の電話を使用することもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間と食堂でスペースが分かれており、その中央部には吹き抜けのテラスがあり室内を明るくしている。テラスで日光浴をされたり、レクや活動をおこなうこともある。 廊下や共有スペースは歩行や車椅子移動の妨げにならないよう、環境整備に努めている。	居間と食堂でスペースが分かれており、その中央部には吹き抜けのテラスがあり室内を明るくしている。テラスで日光浴をされたり、レクや活動をおこなうこともある。 廊下や共有スペースは歩行や車椅子移動の妨げにならないよう、環境整備に努めている。	玄関を入ると中央にはウッドデッキを設えた吹き抜けがあり、手前はみんながテレビなどを楽しむ居間、奥は食事の場所としてテーブルが並んでいる。吹き抜けはガラス張りになっているため、採光と奥まで見通せるメリットの他に、洗濯物を干したり、体操やおやつタイムの憩いの場でもある。吹き抜けを囲む廊下には、利用者の行動を妨げるような物もない。みんなで作った貼り絵や、あちらこちらに飾られている生花から季節を感じることができる。居間の横には台所があり、調理をする音や匂いが食事時を知らせている。光はレースカーテンで調節され、道路脇だが騒音は気にならない。24時間換気システムが動いているが、不在の居室などは窓を開けて空気の入替えを行っている。手を触れる箇所の消毒もこまめに行い、浴室やトイレはきれいに掃除されている。蓋つきの容器を備え、汚物などを置く場所も確保されており嫌な臭気はない。	

自己	外部	項 目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の 合った利用者同士で思い思いに過ごせる ような居場所の工夫をしている	居間と食堂で分かれているスペース を活用することにより、1人でも気の 合った利用者同士でも過ごせる環 境ができている。席の配置にも配慮 している。	居間と食堂で分かれているスペース を活用することにより、1人でも気の 合った利用者同士でも過ごせる環 境ができている。席の配置にも配慮 している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家 族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	ベッドやタンス等は各居室に備え付 けられているが、馴染みの私物や家 具を持ち込まれている方もいる。 家族の写真を飾ったり、好きな本 を持参されている方もいる。 ベッドは利用者個々の状態に応じた ものを使用しており、シーツは週1回 交換、その他寝具も必要に応じて随 時交換し清潔を保つようにしてい る。	ベッドやタンス等は各居室に備え付 けられているが、馴染みの私物や家 具を持ち込まれている方もいる。 家族の写真を飾ったり、好きな本 を持参されている方もいる。 ベッドは利用者個々の状態に応じた ものを使用しており、シーツは週1回 交換、その他寝具も必要に応じて随 時交換し清潔を保つようにしてい る。	各居室にはクローゼットがあり、年 間を通した衣類を所持する方もい る。また整理整頓にも役立ち、室内 はすっきりと片付いている。寝具は レンタルで通常は年2回ほどの交換 だが、必要があればこの限りではな い。シーツなどのリネンは週1回交 換され、清潔保持に努めている。使 い慣れた品物を持ち込み、壁には 大きめのコルクボードが取り付け てあり、家族の写真などを自由に飾 る方もある。備品の整理だんす上を飾 り棚としても活用しながら、居心地よ く過ごしてもらえるよう支援してい る。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や 「わかること」を活かして、安全かつでき るだけ自立した生活が送れるように工夫して いる	自立歩行や車椅子が自走できる方 にも配慮し、安全な動線の確保に努 めている。ご自身の居室やトイレの 場所が分かるよう目印を付けている 場所もある。	自立歩行や車椅子が自走できる方 にも配慮し、安全な動線の確保に努 めている。ご自身の居室やトイレの 場所が分かるよう目印を付けている 場所もある。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)		○	1. ほぼ全ての利用者の
		○		2. 利用者の2/3くらいの
				3. 利用者の1/3くらいの
				4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○		1. 毎日ある
			○	2. 数日に1回程度ある
				3. たまにある
				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)		○	1. ほぼ全ての利用者が
		○		2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)			1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
		○		3. 利用者の1/3くらいが
			○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)		○	1. ほぼ全ての利用者が
		○		2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と
				2. 家族の2/3くらいと
				3. 家族の1/3くらいと
				4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	○	1. ほぼ毎日のように
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまに
				4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている
				2. 少しずつ増えている
				3. あまり増えていない
				4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が
				2. 職員の2/3くらいが
				3. 職員の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての家族等が
				2. 家族等の2/3くらいが
				3. 家族等の1/3くらいが
				4. ほとんどいない